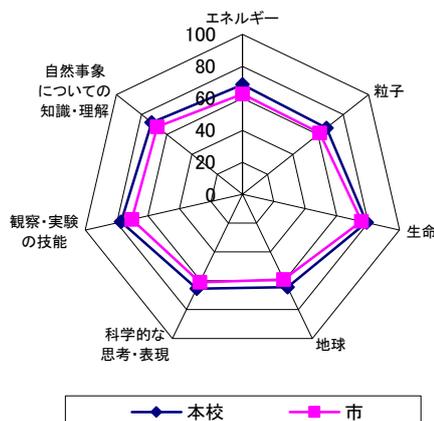


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	68.6	62.7	57.6
	粒子	66.6	61.5	57.7
	生命	79.0	75.8	72.1
	地球	64.4	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	65.4	61.0	54.8
	観察・実験の技能	77.2	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	71.9	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は、市平均より5.9ポイント上回っている。</p> <p>○音の性質の分野では、すべての問題で市の平均より高い。電流計の操作に関する問題と、物体の運動での記録テープの読み取りに関する問題の正答率は市平均より10ポイント以上高いことから、実験の技能は身に付いてると考える。</p> <p>●グラフの読み取りや、実用例と関連づけた計算問題での平均正答率は市平均とほぼ同じか、やや低いことから、実験のデータを処理したり、実験の技能を応用し思考したりする力に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験を多くとり入れ、結果を処理したり分析したりする機会を設け、グラフやデータを読みとり活用する学習を積極的に進めたい。 ・発展的な内容や実生活に応用されている事象と関連付けながら考える学習を取り入れて、日常生活との関わりを意識させたり、知識や技能を実践的に活用できる学習の充実を図っていききたい。
粒子	<p>平均正答率は、市平均より5.1ポイント上回っている。</p> <p>○どの分野においても、平均正答率は市平均より高いことから、学習内容が定着している生徒が多いと考える。</p> <p>●実験の結果を考察し答えを導く問題の中には、平均正答率が市平均とほぼ同じ問題もあるので、科学的思考力が著しく高いわけではないことが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果を考察する場面では、生徒の発達段階や学習状況に応じて、図や表などを用いて分かりやすく伝えたり、穴埋めや選択肢、記述など様々な方法で化学的思考力を養ったりできるようにしたい。 ・グループ学習を積極的に取り入れて、考える過程を重視した話し合い活動を充実させる学習方法を行いたい。
生命	<p>平均正答率は昨年度同様、他の領域より高く、市平均を3.2ポイント上回っている。</p> <p>○植物分野、動物分野のほとんどの問題で市平均を上回っていることから、学習内容が身近であり、目に見える事象が多いため、理解が進んだと考える。</p> <p>●生物の進化についての問題が市平均とほぼ同じ正答率だったことから、生物の特徴から進化について論理的に思考する力に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を理解するだけではなく、生命のしくみや特徴が生物の生きる環境や条件と関連して成り立っていることを考えさせながら授業を展開し、知識を深めていきたい。特に、生命の分野でも目に見えない事象は観察や実験で確かめることを通して、より理解を深められるよう指導したい。
地球	<p>平均正答率は、他の領域に比べて最も低いですが、市平均を5.4ポイント上回っている。</p> <p>○日本の気象に関する問題は知識を問う問題も科学的な思考力を問う問題も市平均よりも高いことから、学習内容が定着していると考えられる。</p> <p>●地層の分野では、地層が堆積した順番を問う問題の正答率が市平均より低かったことから、知識を活用し資料を読みとる力に課題があると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージが難しい事象は、モデルやイラスト、観察などを通して、分かりやすく思考しやすくなるよう工夫をしていきたい。 ・課題解決型の課題をとり入れ、グループ学習などで自分たちの力で資料を活用し論理的に考える力を育んだり、発表の時間を設けて考えを表現したりする活動を行いたい。